

私は、「合唱」が大好きです。しかも、「合唱」の取組は、「学級づくり」や「学年づくり」の大きなチャンスでもあります。そんな私が、「合唱」についてより深く考え、思い入れがより深くなったのが、ちょうど10年前です。そのとき私は2年生の担任でした。「春に」という曲でした。実は、前回の「ひとりごと」に載せていましたが、母のガンが肺に転移し手術をすることが決まったのが10年前の9月でした。「転移」という言葉に、私は恐れていたことが起きたと思い、かなりショックを受けました。その数日後の道徳の時間に、私は、合唱の練習があるのだけれど、母の手術のためにどうしても学校を休まないといけないことを、子ども達に告げました。その中で自分の母への思いを子ども達に話しました。何人もの子ども達が泣いていました。

休みをとる前日の帰りの会で、「明日、先生は休むけれど、担任がいなくてこそ、しっかりと自分たちで頑張りなさい！」と私は言いました。帰りの会が終わり、最後の挨拶をしようと思っていたら、一人の女の子が、「先生、ちょっと待って下さい！」と前に歩みよってきました。そして…「先生、これみんなで先生のお母さんの手術が成功するように書きました」と言って、一人一人のメッセージカードがきれいに貼られた色画用紙2枚を私にくれたのでした。私は、嬉しくて思わず泣いてしまいました。

次の日、私はそれを手に病院に行きました。母はそのメッセージカードを見て、「もう読む前から涙が出てきた。手術が終わってから読むから」と目に涙をいっぱいにため、手術室に入っていました。手術は無事に成功しました。

学校に行き、無事に手術が成功したことを伝えると、子ども達は嬉しそうに微笑み、拍手をしてくれました。ある生徒が「先生、退院はいつになりそうですか？」と聞くので、「うまくいけば2週間後くらいだろうと、病院の先生はおっしゃったよ」と答えました。数日後の生活ノートには、「先生、私達のクラスの目標が決まりました。金賞をとって、先生のお母さんに春日市の合唱祭(春日市では、各中学校の金賞受賞クラスが集まって合唱を披露する場がありました)にきてもらい、私達の歌をプレゼントすることです」と何人もの子が書いてくれていました。黒板にも、『先生のお母さんに合唱祭に来てもらう！絶対、金賞！』の文字が…。

正直、私のクラスは、上手な方ではなかったのですが、それからの子ども達の練習の姿は真剣そのものでした。私もできることはしてあげたいと、国語の先生から教科書に載っている「春に」について教えてもらい、さらにネットなどでも調べ、私なりに詩の意味を解釈してみました。「詩の意味について考えよう」ということで、合唱練習の時間を使って、みんなで詩の勉強会もしました。合唱は日毎によくくなりました。

私は、子ども達の言葉や行動に励まされ、子ども達の素晴らしさを感じ、感謝の気持ちでいっぱいでした。学級通信も毎日発行して、合唱の様子、私の思い、子ども達の思い、親の思いを載せ、みんなで気持ちを共有しました。私は、母へのメッセージカードへのお返しにと、子どもたちにメッセージカードを渡すことにしました。合唱コンクール前日の夜、それまでの練習の様子を思い出しながら、一人ずつ、全員に私の思いを書きました。全部のカードができあがったのは朝でした。コンクールの朝、それを子どもたち一人一人に渡しました。子ども達はとても嬉しそうでした。それを大事に胸ポケットにしまい、私に「ありがどうございました。絶対金賞、とります！」という子ども達を、心から誇らしく思いました。

そして、私を驚かせたのが、パートリーダーの一人の女の子が、私と同じように徹夜をして、全員にメッセージを書いてきていたのです。子どもってすごいな〜と改めて思いました。

本番前の「春に」を聴いたとき、私は胸がいっぱいになりました。もう十分「金賞」以上の歌になっていました。いや、これだけ全員が素敵な表情で心を込めて歌っているのだから、もう賞は関係ないと思いました。そして、本番はさらに心のこもった素敵な「春に」を歌ってくれました。歌い終えてステージから降りてくる子ども達の多くが泣いていました。歌いきった満足感、この仲間と歌えたことの幸せを感じての涙でした。結果は「金賞」。歓喜と涙の閉会式でした。その日の帰りの会、私が教室に行くと子ども達が私の周りを取り囲み、「先生を胴上げしよう！」と言って私は生まれて初めての胴上げまでしてもらいました。

(次ページへ続く)

その後の合唱祭。私の両親は、この素敵な「春に」を聴くことができました。子ども達は、『今日は先生のお母さんのために、みんなでコンクールのとき以上に、素晴らしい「春に」を歌います』と言って、ステージにあがってくれました。本当に一体感のある素敵な合唱でした。席に戻ってきた子ども達が私の母に「私達の歌、どうでしたか？」と聞く表情は、満足感でいっぱいでした。母は、終わってから「素敵な子ども達やね〜。あんた、こんな子ども達に出逢えて幸せやね。感謝しないとね」と、私に笑顔で言いました。私もまさにその通りだと思いました。改めて出逢いの大切さと子ども達の素晴らしさを感じることができました。

母が亡くなった年の学級は、「時の旅人」という曲に取り組んでいました。私は、母が亡くなってから1週間仕事を休みました。合唱コンクール前の大事な時期に休んでしまい子ども達に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。私は、合唱コンクールの前々日にやっと学校に行きました。そして、生活ノートや班ノートなどに書かれた子ども達の優しさ溢れるメッセージに心震えました。

◇先生へ・・・先生が悲しくなるような、後悔するような合唱は絶対につくりません！！指揮者として、クラスの一員として精一杯素晴らしいものをつくりあげてきます。お願いですから、先生自身を責めることなどしないで下さい。そのためにも頑張りますので、それだけはやめて下さい。合唱のことは通し、たくさん先生から学びました。それだけで十分だと思います。先生から学んだことを生かし、素晴らしい合唱をつくりあげます。絶対に・・・！！心を一つに。

そのあと、私は母親のこと、命のこと、そして様々な思いを子ども達に話しました。子ども達はとても真剣に私の話を聞いてくれました。そして、「どれだけ練習して歌えるようになったか、聴かせてくれないか？」と言うと、大きくうなづき歌ってくれました。その眼差しの真剣さと私に伝えようとする姿勢が私の心に突き刺さりました。私は涙が止まりませんでした。賞はとれませんでした。本番も心震える合唱となりました。保護者の方々も大変喜んで下さいました。

◆素晴らしい合唱でした。心が震える合唱でした。今、そこに至るまでの子ども達の気持ちの動き、決意を改めて知り、今日の合唱は「つくりあげられるべくして、つくりあげられた」のだと感じました。娘がこのクラスの一員で本当によかったと思いました。同じクラスの子供達にそして先生に心から感謝しています。あと半年、よろしくお願いします。

◆先生、お寂しくなりましたね。素晴らしいお母さんだったんだなと感じました。子どもには「先生がいなくてこそ、頑張って練習せんといかんよ！そして、先生が来られたときにこんなに上手になってるとびっくりされるように・・・」そしたら、子どもが帰ってきて「今日、先生が僕たちの合唱聴いて泣いてたよ！」って言ってました。今日の合唱も、きっとみんな先生のことを思いながら歌っていたと思います。素晴らしかったです！！

次の年は、3年生で「花をさがす少女」という曲に取り組みました。戦争をテーマにした曲です。詩の意味をしっかりと理解し、感情を込めないと歌えない曲です。曲の中に「ブーゲンビリア」という花が出てきます。副任の先生が教室にこの花を飾ってくれました。なかなか本気になれない子ども達もいました。何度も話し合いをしました。私は、ベトナム戦争や沖縄戦について子ども達と一緒に勉強しました。詩の意味や情景を深く深く考えました。そして、「命の大切さ」についての話をしました。そのときに母の話もさせてもらいました。インフルエンザによる学級閉鎖になり、本番前に練習できない時期もありましたが、子ども達は、心をこめて歌ってくれました。聴いて下さったたくさんの方が感動して涙して下さいました。そして、歌い終えてステージを降りるときには、涙している子ども達の姿がありました。結果発表・・・賞をとることはできませんでした。でも、子ども達は満足していました。このかけがえのない仲間と歌えた幸せを身をもって感じたのです。平和の尊さや命の大切さ、人とのつながりや仲間の大切さをこの曲を通して学んだからです。本番前に子ども達は「天国にいる先生のお母さんに届くように歌います」と言ってくれました。

毎年毎年の合唱の取組の中で、子ども達の優しさや素晴らしさをたくさん感じる事ができました。そして、保護者の方の優しさと温かさ、我が子への想いをたくさん知ることができました。

私の中で「母と合唱」は切り離せないものになっています。この時期になると、母の笑顔と子ども達の一生懸命に歌う姿がリンクして、なんとも言えない気持ちになります。「歌は心」・・・大利中の子ども達は、その「出逢い」に感謝をし、「命」に感謝をし、多くの人やものに感謝をしながら素晴らしい合唱にしてくれると思います。

10月20日、40周年記念文化祭。世界にひとつだけしかない、それぞれのクラスの素晴らしい歌声がホールいっぱい響いてくれることでしょう・・・